



平成 28 年 8 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループ  
 代表者名 代表取締役社長 リム・キム・リン  
 (コード：9704 東証第1部)  
 問合せ先 取締役CFO 佐藤 暢樹  
 (TEL. 03-3436-1860)

## 営業外収益および営業外費用の計上ならびに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は平成28年12月期第2四半期累計期間（平成28年1月1日～平成28年6月30日）において、営業外収益および営業外費用を計上することといたしましたのでお知らせするとともに、最近の業績動向等を踏まえ、平成28年2月12日に公表した平成28年12月期第2四半期累計期間（平成28年1月1日～平成28年6月30日）および通期（平成28年1月1日～平成28年12月31日）業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 1. 営業外収益（持分法による投資利益）の計上

当社の豪州における持分法適用関連会社の、平成28年12月期第2四半期累計期間における、四半期純利益を当社の持分に応じて取り込んだ結果、持分法による投資利益23百万円を計上いたしました。

## 2. 営業外費用（為替差損の増加）の計上

平成28年12月期第1四半期連結累計期間において、外貨建資産に対する為替の影響等により30百万円の為替差損を計上しておりましたが、その後の為替相場の変動等により、為替差損は174百万円に増加いたしました。

これは、平成28年12月期第2四半期末（平成28年6月末日）時点において、当社保有の外貨建資産を同日の為替相場で評価したことによる為替差損によるものであり、今後の為替相場の動向に伴ってこの額は変動いたします。

## 3. 業績予想の修正について

(1) 平成28年12月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正  
 (平成28年1月1日～平成28年6月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	4,200	170	160	110	0円40銭
今回修正予想 (B)	3,850	80	△90	△130	△0円47銭
増減額 (B-A)	△350	△90	△250	△240	
増減率 (%)	△8.3	△52.9	—	—	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成27年12月期第2四半期)	3,879	227	114	△230	△0円71銭

(2) 平成 28 年 12 月期通期連結業績予想値の修正

(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	8,800	580	640	360	1 円 31 銭
今回修正予想 (B)	8,800	580	360	650	2 円 36 銭
増減額 (B-A)	—	—	△280	290	
増減率 ( % )	—	—	△43.8	80.6	
(ご参考) 前期連結実績 (平成 27 年 12 月期)	8,040	489	371	△166	△0 円 60 銭

(3) 平成 28 年 12 月期第 2 四半期 (累計) 個別業績予想値の修正

(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	四半期 純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	60	70	160	0 円 58 銭
今回修正予想 (B)	60	△170	△90	△0 円 33 銭
増減額 (B-A)	—	△240	△250	
増減率 ( % )	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 12 月期第 2 四半期)	93	35	△158	△0 円 58 銭

(4) 平成 28 年 12 月期通期個別業績予想値の修正

(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	120	190	280	1 円 02 銭
今回修正予想 (B)	120	990	960	3 円 48 銭
増減額 (B-A)	—	800	680	
増減率 ( % )	—	421.1	242.9	
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 12 月期)	111	110	△84	△0 円 31 銭

#### 4. 業績予想の修正の理由

##### (1) 連結業績について

平成28年12月期第2四半期連結累計期間の売上高は、当社グループの宿泊事業部門につきましては訪日外国人旅行者および国内旅行者は堅調に推移したものの、前回予想を若干下回る見込みです。利益面においては、営業費用の抑制に努めましたが、為替相場の変動により為替差損が増加したこと等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益についても前回予想を下回る見込みです。

通期連結業績予想の修正につきましては、第2四半期（累計）連結業績予想の修正を踏まえ、平成28年7月14日付「連結子会社における固定資産信託受益権の譲渡ならびに特別利益の計上に関するお知らせ」および、平成28年7月15日付「プライム・ホワイト・インベストメント・リミテッドの株式の取得（子会社化）およびホテル資産（不動産信託受益権）の取得に関するお知らせ」の開示内容を前提とした損益影響を反映し、修正をしております。

##### (2) 個別業績について

平成28年12月期第2四半期個別累計期間の利益面においては、営業費用の増加および、前述の為替差損の計上により、経常利益および、四半期純利益が前回予想を下回る見込みです。

通期個別業績予想の修正につきましては、通期連結業績予想の修正に記載の内容と同一の理由によるものです。

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上